

インターフェイス講義 第1回 レポート

提出日： 2024年 7月 12日

学籍番号： 2433730032

氏 名： 岡村 翼

マンズワイン

まとめ

日本のワイン消費量はCMの効果などもあり、定期的にワインブームが起こることで右肩上がりに上昇している。とは言ってもやはり、欧州やアメリカと比べると、日本のワイン消費量は非常に少ない。

日本国内でのワイン製造については、比較的首都圏に近く、ワインの製造に適した環境である山梨及び長野が主な産地になっている。マンズワインのワイナリーも山梨と長野にある。

感想

高校生の頃からワインに興味を持ったということに驚いた。本当に飲んでいなかったのか、少し疑問に思った。

フランスにはワイン醸造学部があるということを初めて知り、フランスのワインへの熱量を感じた。日本のワイン市場は当初自分が考えているよりも多く、年間一人当たり約 3L 程度消費しているということで、そんなに飲んでいるかと疑念を抱いたが、飲むワインだけではなく、料理に使用しているものも含めると、その程度はありそうだった。また、自宅にあるワインを見てみると、白ワイン及び赤ワイン共に輸入ワインでスペイン・チリであった。2022 年の世界ワイン輸出量を見てみると、スペインは 2 位、チリは 4 位でスペインはともかくチリはワインのイメージは無かったので驚いた。どうやら。日本は関税の関係で、チリから多くのワインを輸入しており、2020 年の日本の輸入ワインの内約 29% がチリ産でフランスの約 27% を超えている。

<参考文献>

日本で愛されるチリワインの知られざる魅力,

(2024/07/12), <https://www.enoteca.co.jp/article/archives/6791/>

国内製造ワインの概況, (国税庁課税部酒税課), (2024/07/12)

https://www.nta.go.jp/taxes/sake/shiorigaikyo/seizogaikyo/kajitsu/pdf/h29/29wine_all.pdf